

ふるさと再発見

第16代島原城主 松平忠精公（1832-1859）

忠精公は忠侯公の第4子で、先代の忠誠公の同母弟になります。忠誠公の急逝を受けて、藩主となりました。

忠誠公の頃からの課題であった海防政策においては、島原城下に台場を築いたほか、広く銅器を徴収して大砲も鑄造しました。

しかし、その後も長崎には西欧諸国の船が来航したため、警備兵を派遣する必要がありました。

ペリーによる浦賀への「黒船来航」も1853（嘉永6）年と、忠精公の時代にあたります。

このような外国からの圧迫に対抗するための海防費がかさみ、藩の財政を圧迫することとなりました。加えて、風水害や干害により、収入も減少していましたから、藩政に追い打ちをかけます。

このような世相の中、農村では痘瘡やトンコロリ病（コレラ）が流行し、農村部をさらに疲弊させました。

そこで、藩は藩医の賀来佐一郎に種痘を学ばせ、1849（嘉永2）年に城内の済衆館において種痘を実施しました。

忠精公は、庄内藩主酒井忠器の娘・銚子（俊光院）と1854

（安政元）年に結婚しますが、2年後に先立たれてしまいます。1858（安政5）年には、宇和島藩伊達宗紀の娘・正子（真鏡院）と結婚します。

忠精公は、1859（安政6）年、6月28日に28才で亡くなりました。

真鏡院の墓は松平家墓所（現・本光寺）に建立されています。また、本光寺常盤歴史資料館には真鏡院にまつわる資料も所蔵されています。

この真鏡院を通じた宇和島藩伊達家との繋がりには次代・忠淳公へ引き継がれていくことになりました。

（地域おこし協力隊 吉岡 慈文）
（出典：『三百藩藩主人名事典』4）



真鏡院が嫁入り道具として持参した蒔絵漆器と長持（本光寺常盤歴史資料館所蔵）

地域おこし協力隊コラム

協力隊、なんしよっと？

地域おこし協力隊 庄司 航

私の地域おこし協力隊としての活動の大きな目的の一つとして、島原市の芸術文化活動を活性化することがあります。

とはいえ創作は鑑賞よりもハードルが高く、はじめの一步を踏み出しにくい人もいます。そこで市民のみなさんに創作の楽しさを知ってもらおうと、これまでに島原城での子どもを対象にした「漫画講座」、島原アミューズメントカフェズでのパソコンを使った「作曲講座」を行ってきました。今回それをさらに発展させて、次のような初心者向けの創作連続講座を企画しました。さまざまなジャンルを取り扱っています。関心のある人は、ぜひご参加ください。

第1回目は12月21日（土）に開催します。内容は漫画制作の方法について解説をし、実際に漫画の設計図である「ネーム」を作ってもらう予定です。

第2回目以降は、映画の脚本、

絵、作曲、作詞、小説の回と続きます。場所は島原市万町商店街にある「コワーキングスペースH・U・B」、定員は各回10人程度です。お申込み、お問い合わせは nzurisanainfo@gmail.com か 090・9720・3426 にご連絡ください。

また詳細は「アトリエンス・サナ」のウェブサイトをご覧ください。

▼問い合わせ先
社会教育課
（公内線652）
アトリエンス・サナ



漫画制作中の庄司隊員

